

るるぶ

特別編集



福島・兵通り くる伝える・桔・ぶ



UR都市機構

キモチ、あつまる
プロジェクト
2025

大熊町

双葉町

浪江町

私たちが作りました!



キモチ、あつまる プロジェクト2025

スタディツアーリンク

福島県浜通りの 復興・ まちづくりを 体感!

独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)はこれまで培ってきたまちづくりの経験やノウハウ等を活かし、原子力災害からの復興まちづくり支援に取り組んでいます。UR都市機構では、支援地域の関係人口の増加等を目的に、「キモチ、あつまるプロジェクト2025」として学生向けのスタディツアーリンクを実施しました。ツアーには全国から15名の学生が参加。東日本大震災、原子力災害被災地域を訪れ、復興・まちづくりに携わる人々との出会いを通じて、現地での課題、未来への希望を知る、創る、学ぶ、貴重な機会となりました。

地域ブレイヤーとは? 交流人口・関係人口の創出・拡大や、中心部の活性化に貢献する地域の人のこと。今回、学生に向けて活動内容や熱い思いを話していただきました!

スタディツアーリンク

- 1日目
 - JR双葉駅 集合
 - 双葉町産業交流センター(F-BICC)
 - 東日本大震災・原子力災害伝承館
 - 震災遺構 浪江町立請戸小学校
 - 中間貯蔵事業情報センター
 - 福島いこいの村 なみえ
- 2日目
 - JR浪江駅周辺 観察
 - 道の駅なみえ
 - linkる大熊
 - 大熊町下野上地区 観察
 - FUN EAT MAKERS in Okuma (ノキシタキッチン)
 - 双葉駅西側地区 観察
 - ふたば飲み
 - CREVAおおくま
- 3日目
 - CREVAおおくま ワークショップ開催!
 - JR大野駅 解散

大熊町
谷田川 佐和さん

大熊インキュベーションセンター
コミュニティマネージャー

町外から来た企業や起業家の事業支援を行う大熊インキュベーションセンターにおいて、町内外の人と人をつなぐ役割を担う。

大熊町
南場 優生海さん

(株)バトン

大熊町出身。大熊町内に限らず浜通り全域で地域外からの関係人口創出や町内にぎわい創出に携わる。

**6年目を迎える
おおくまハチドリプロジェクトなど、
やったことのない仕事ばかりで、
シンプルに仕事がメチャ楽しいんです。**

**地域ブレイヤー
大熊町
谷田川 佐和さん**

linkる大熊

①復興のシンボルとして親しまれる道の駅

②JR浪江駅周辺のまちづくりを学ぶ

③施設内で育てた野菜をレストランで楽しめる

④多目的ホールなどがある施設(PBC3)で、大熊町の復興について学ぶ

⑤クマSUNテラス(→P4)のカフェ「panier」のお弁当でランチを

⑥「まちづくりとは? 復興とは?」と考えると、町の人気がちょっと歩いている、走っている、そういう人が増えてくると復興してきたと感じます。

⑦人気のクレームブリュレをみんなで満喫

⑧大熊町にはおもしろい取り組みやおもしろい人が多い。震災前の大熊町を好きだけど震災前よりも楽しい町になってほしい。好きな地元だから。

⑨放射線を計測する経験も

⑩施設の説明を聞く学生たち

⑪宿泊

⑫海から約300mの場所にありながら、無事に避難できた経験を学べる

道の駅なみえ P 6

JR浪江駅周辺 観察 2日目

**双葉町
産業交流センター
(F-BICC) P 5**

**東日本大震災・
原子力災害伝承館 P 5**

**中間貯蔵事業
情報センター P 4**

震災遺構 浪江町立請戸小学校 P 6

福島いこいの村 なみえ P 6

大熊町
谷田川 佐和さん

6年目を迎えるおおくまハチドリプロジェクトなど、やったことのない仕事ばかりで、シンプルに仕事がメチャ楽しいんです。

①JR浪江駅周辺のまちづくりを学ぶ

②施設内で育てた野菜をレストランで楽しめる

③クマSUNテラス(→P4)のカフェ「panier」のお弁当でランチを

④多目的ホールなどがある施設(PBC3)で、大熊町の復興について学ぶ

⑤クマSUNテラス(→P4)のカフェ「panier」のお弁当でランチを

⑥「まちづくりとは? 復興とは?」と考えると、町の人気がちょっと歩いている、走っている、そういう人が増えてくると復興してきたと感じます。

⑦人気のクレームブリュレをみんなで満喫

⑧大熊町にはおもしろい取り組みやおもしろい人が多い。震災前の大熊町を好きだけど震災前よりも楽しい町になってほしい。好きな地元だから。

⑨放射線を計測する経験も

⑩施設の説明を聞く学生たち

⑪宿泊

⑫海から約300mの場所にありながら、無事に避難できた経験を学べる

③
④

時をつむいで未来へ 浪江町

なみえまち

海から山まで東西に広がる町で、双葉郡の中で最も面積が広い。請戸ものやなみえ焼そばなど名物グルメが多く、道の駅なみえを中心に観光復興が進む。JR浪江駅前では新しいまちづくりが進行中。



未来デザイン都市 浪江

震災からの復興を歩み続ける浪江町。その玄関口となるJR浪江駅前に隈研吾氏設計の木質感あふれる新たな施設が2028年に誕生する予定。観光案内やカフェ、地域交流やイベントスペースなどを備え、人々が集い、憩い、未来へとつながる拠点としての活躍が期待されている。ここから浪江のまちづくりは新しい一步を踏み出す。



新たな駅前構想

©Kengo Kuma & Associates



施設内に設置された地域のイベント情報をまとめた手書きカレンダー「なみえカレ」で地域活動の予定をチェック(MAP P8B1)

グルメ、みやげ、体験!
浪江の魅力がいっぱい



道の駅なみえ

●みちのえきなみえ
②0240-23-7121 MAP P8C1
復興の象徴として地元の人々と旅行客をつなぐ場所。ご当地グルメ「なみえ焼そば」が人気のフードコート、地元の产品が買える直売所のほか、酒蔵見学もできる。併設する「ラッキー公園」にはふくしま応援ポケモン「ラッキー」の巨大遊具もあり、家族連れに人気。

④浪江町幾世橋知命寺 60 JR浪江駅から車で3分⑤10~18時(店舗により異なる)⑥毎月最終水曜⑦103台



③3月11日の時間経過と避難の状況がリアルに伝わる
④2階の高さまで津波が到達した
⑤ルートに沿って見学する
と、避難の時系列がわかる

震災の教訓を伝える

震災遺構 浪江町立請戸小学校

●しんさいこうなみえちょうりうつけどうしうがこう

④0240-23-7041 MAP P8C2

教員員的確な指示により学校にいた教員・児童全員が1.5 km離れた大平山に無事避難することができた学校として知られる。「防災意識向上」を目的とし、2021年から一般公開されている。

④浪江町請戸小学校 56 JR浪江駅から車で10分⑤300円⑥9時30分~16時30分(最終受付は16時)⑦火曜(祝日の場合は翌日)⑧20台



自然災害の脅威と
避難の重要性を体感



④震災の脅威を伝えるため、災害当時の状況を残したまま保存
⑤2階の高さまで津波が到達した
⑥ルートに沿って見学する
と、避難の時系列がわかる

キモチ、あつまる プロジェクト2025 スタディツアー

私たちが感じたこと!

3日間のスタディツアーに参加して、さまざまなものを見て、聞いて、学んだ
学生たちの思いを紹介!

N.Wさん(埼玉県)
突然あたりまえの日常が奪われて、まだ本来の場所に戻れないにもかかわらず、みんな笑顔で励ましあって、すごくステキな地域だと感動しました。地元の人こそが「地域の光」なのだと思いました。

T.Hさん(大阪府)
「大人の声しかしない街」という中間貯蔵施設の方の言葉が心に残っています。復興とは、近所を散歩する、買い物をする、お隣さんがいるという日常の風景が戻ってくること。その風景をどう取り戻していくかを、自身の学びに活かしたいと思っています。

Y.Tさん(神奈川県)
津波のこと、原発事故のことなど、当時を知らない世代が増えているなかで、学生のうちに浜通りを訪れるることはとても大切なことだと思います。現地の様子を見て、地元の方や移住者の方の話を直接聞くことで、防災への意識が高まるほか、新しいことに挑戦する意識にもつながると思うので、みなもぜひ訪れてみてください。

M.Tさん(東京都)
今回のツアーに参加する目的の一つに「復興とは?」という問い合わせを見つけることを考えていました。学生がここを訪れるなら、それぞれ訪問の目的を明確にし、実際に訪れることで、その答えとなるものを自分で見つける時間にしてほしいと思います。

M.Sさん(神奈川県)
昨年訪れたときより、復興が進んでいると思いました。「復興」にはいろいろ人のいろいろな考え方や願いが込められ、それぞれが思うゴールに向けて日々行動していると感じました。今回の旅で私自身が関係人口として双葉郡と関わることができ、一度得たつながりを今後も継続するようにしていきたいです。

S.Tさん(熊本県)
熊本地震を経験した私にとって、防災や復興は身近なテーマでしたが、福島を訪れて放射性廃棄物や中間貯蔵施設など、「長期にわたって向き合わなければならない課題」があることを実感しました。

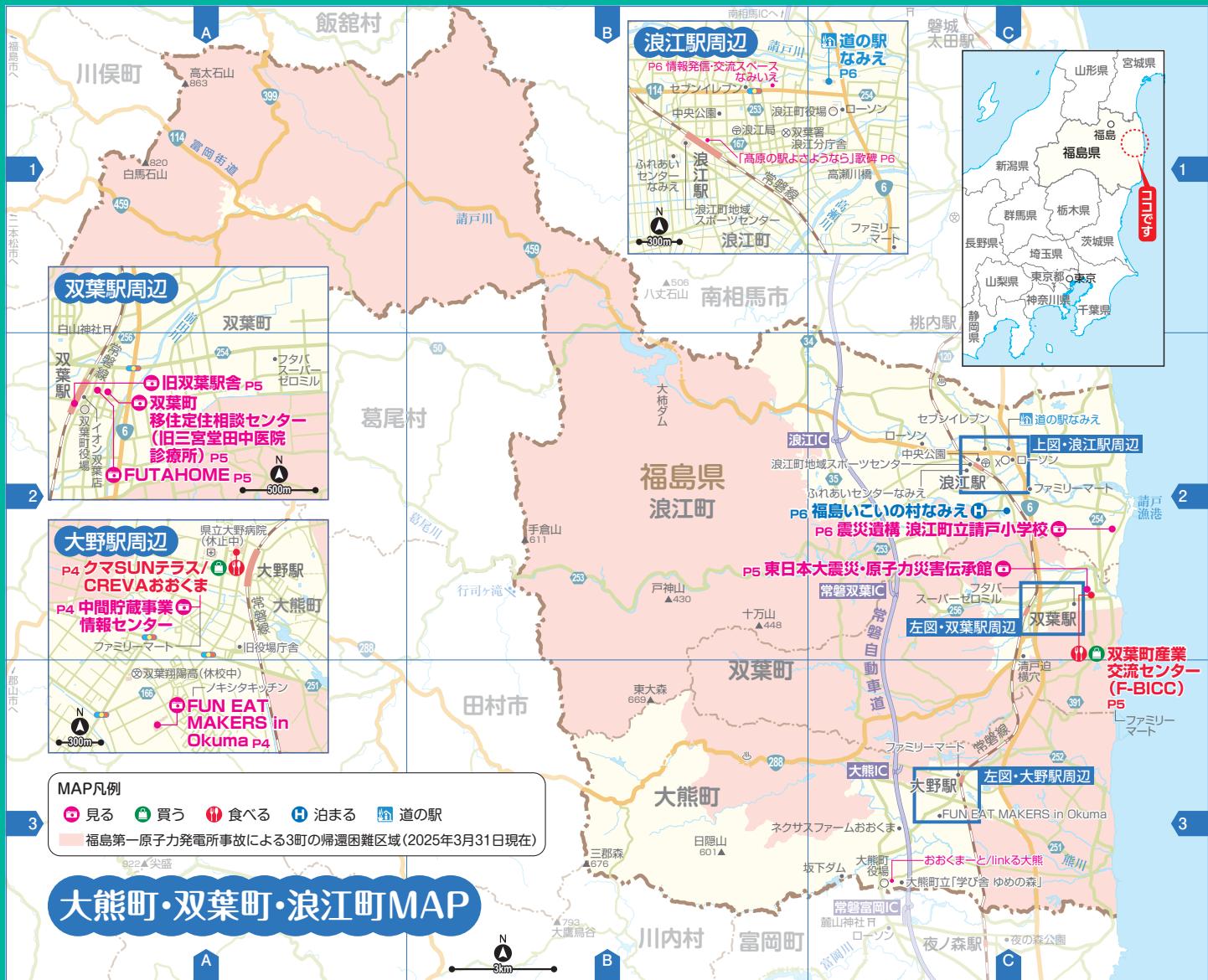
N.Sさん(京都府)
実際に訪れてみて、自身の経験で「記憶にある」ことや、テレビ放送などで「知っている」ことが180度変わる経験ができたと思います。実際に訪れて、震災のことだけでなく、復興にかける思いや生き方にも注目してほしいです。

F.Sさん(東京都)
震災前から住んでいた人も移住してきた人も同じコミュニティの中で、同じ方向を向きながら、それぞれの活動を行っており、「人のつながり」を感じました。お話を聞いたすべての方から「よりよい町にしよう」という強い気持ちが伝わり、それこそが町の復興や活性化につながるのだと思いました。

N.Sさん(京都府)
今現在、帰還困難区域で家へ帰れない人もいるという事実を知り、どのくらい復興が進んでいるかを見ることが出来ました。帰りたい人が帰れるふるさとを作り、地域を盛り上げたい人が活躍できる場になってほしいと思いました。私自身、何か少しでも力になること、関わり続けることができればと思っています。

T.Hさん(大阪府)
大人の声しかしない街」という中間貯蔵施設の方の言葉が心に残っています。復興とは、近所を散歩する、買い物をする、お隣さんがいるという日常の風景が戻ってくること。その風景をどう取り戻していくかを、自身の学びに活かしたいと思っています。

N.Wさん(埼玉県)
突然あたりまえの日常が奪われて、まだ本来の場所に戻れないにもかかわらず、みんな笑顔で励ましあって、すごくステキな地域だと感動しました。地元の人こそが「地域の光」なのだと思いました。



キモチ、あつまるプロジェクト2025 スタディツアーを終えて

(UR職員後記)

今年のツアーは、復興に携わる地域プレーヤーのみなさんとの交流や新しくオープンした施設をご覧いただくだけでなく、浪江町、双葉町、大熊町のハード、ソフト両面でのURの復興まちづくり支援を、学生のみなさんにより近い感覚でお伝えしたいと思い、ツアー参加学生と世代が近いUR若手職員から説明をさせていただきました。

現地を巡り、学んだ参加学生のみなさまが想いを込めて構成を考えていたいたおかげで、素敵なるるぶに仕上りました。

URは、福島の復興をより多くの方に知っていただくこともURの復興まちづくり支援のひとつであると考えています。引き続き、さまざまなお伝えしてまいりたいと思います。

ツアー実施にあたり、多大なるご協力をいただきましたみなさまに心より感謝申し上げるとともに、ひとりでも多くの方々がこの「るるぶ特別編集」を手に取って、福島の復興を見てみたい、URの復興まちづくり支援を知りたいと思っていただけることを願っております。

スタディツアーUR職員

勝谷 亜子
河田 成夢
原 楓里

盛合 一功
吉村 萌香
佐藤 遼
田中 虎次郎
石橋 拓海

——社会課題を、超えていく。——



写真協力…Harty (熊谷佑治) / 新潮社

発行 独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)
企画・編集・制作 JTBパブリッシング

©2025 UR都市機構/
JTB Publishing All Rights Reserved.

※本誌掲載のデータは2025年10月末のものです。発行後にデータが変更になる場合がありますので、お出かけの際には電話等で事前に確認されることをおすすめいたします。なお、本誌掲載内容による損害等は補償いたしかねますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。※本誌掲載の入園料などは大人料金を掲載しており、原則として取材時点で確認した消費税込みの料金です。※定休日は原則として年末年始・お盆休み・ゴールデンウイークを省略しています。※利用時間は特記以外原則として開店(館)～閉店(館)です。オーダーストップや入店(館)時間は通常閉店(館)の30分～1時間前ですのでご注意ください。※交通の所要時間はあくまで目安です。天候の影響や季節により変動する場合がありますので、お出かけの際には各交通機関にお問合せください。※本誌に掲載した地図の作成にあたっては、国土地理院数値地図(国土基本情報)を加工しています。